

# 上下水道事業の財政事情

問 経営総務課

☎(582)1136

☎(582)5780

## 水道事業

平成29年度

決算 状況

給水量は866万<sup>m</sup>（前年度比6万<sup>m</sup>減）、給水人口は82,679人（前年度比620人増）でした。

### 財政収支

収益全体では15億887万円で、給水収益が減少したことなどにより前年度に比べ4,806万円の収入減となりました。

費用全体では14億4,874万円で、受水量の増加などにより前年度に比べ2,155万円の支出増となりました。当年度の収支は6,013万円の純利益となりました。

資本的収支については、企業債を発行し、耐震化事業に係る国庫補助金を収入するなどして収入額が3億3,762万円、支出額が7億6,413万円でした。

収支不足額4億2,651万円については、過年度損益勘定留保資金などで補填しました。

平成30年度

上半期 業務状況

給水量や新規加入金が増加したことなどにより、収益全体では7億4,975万円（前年同期比3,560万円増）でした。費用全体では6億1,605万円（前年同期比226万円減）で、当期の純利益は1億3,370万円でした。

なお、上半期に比べ下半期は支出が集中するため、最終決算では当期純利益は減少する見込みです。

### 用語解説

- ・給水量 水道メーターで量った実際に使われた水の量
- ・受水量 県などから購入する水の量
- ・純利益 事業全体の利益に臨時的な特別利益や特別損失を差し引きした最終的な利益
- ・資本的収支 施設の建設費や企業債に関する収入と支出
- ・企業債 地方公営企業が行う施設の建設改良などに要する資金に充てるために起こす地方債
- ・損益勘定留保資金 現金の支出を必要としない費用（減価償却費など）の計上により、企業内部に留保される資金

## 下水道事業

平成29年度

決算 状況

総排水量は1,081万<sup>m</sup>（前年度比27万<sup>m</sup>の減）、当年度末の処理区域内人口は78,884人（前年度比656人の増）でした。

### 財政収支

収益全体では20億7,805万円（うち下水道使用料収益が13億6,997万円）でした。

費用全体では20億6,574万円で、当年度純利益は1,231万円でした。

資本的収支については、企業債を発行し、耐震化事業に係る国庫補助金を収入するなどして収入額が6億9,613万円、支出額が14億5,576万円でした。

収支不足額7億5,963万円については、当年度損益勘定留保資金などで補填しました。

平成30年度

上半期 業務状況

収益全体では11億3,991万円（営業収益が7億5,235万円、営業外収益が3億8,756万円）でした。

費用全体では、8億5,022万円（営業費用が7億6,600万円、営業外費用が8,422万円）で、当期の純利益は2億8,969万円でした。

なお、上半期に比べ下半期は支出が集中するため、最終決算では当期純利益は減少する見込みです。

### 用語解説

- ・営業収益 営業活動で生じる収益（使用料収益など）
- ・営業外収益 営業活動以外で生じる収益（受取利息など）

※純利益、資本的収支、企業債、損益勘定留保資金については上記に記載